

# 奥田家住宅（分家）と 史跡山科本願寺跡公園



奥田家分家は、京都市の制度「京都を彩る建物や庭園」に選定されています。建物は教材として講座や勉強会にも使われています。

北側の本家と道をはさんで長屋門が向かい合い、石垣に板塀、白壁のコントラストが周囲の景観と調和しつつ、印象的な風景となっています。

<https://kyoto-irodoru.city.kyoto.lg.jp/index.html>



伝統的な生け花は、先生の解説を聞きながら見て学びます。生徒は、一輪挿しや投げ入れを体験します。



<https://www.facebook.com/okudakebunke>

## つないでいきたいものがある

日本には気候や風土に添いながら、何百年も生きている木造建築がたくさんあります。伝統木造建築は、その国の文化を私たちに伝えてくれます。古材文化の会は、木材や素材を大切に使う気持ちを持って、歴史ある建物を継承するための幅広い活動を続けています。奥田家住宅（分家）の保全や史跡山科本願寺跡公園の管理にかかわっています。

### 古材文化の会の3つの目標

1. 古建築及び古材の活用を促進します
2. 伝統的木造建築文化と建築技能の継承と発展を図ります
3. 資源と共存する持続可能な社会の実現を目指します

(任意団体設立：1994年(平成6年)9月25日  
NPO法人設立：2001年(平成13年)4月11日  
認定NPO法人：2013年(平成25年)7月10日  
会長：中川 等)

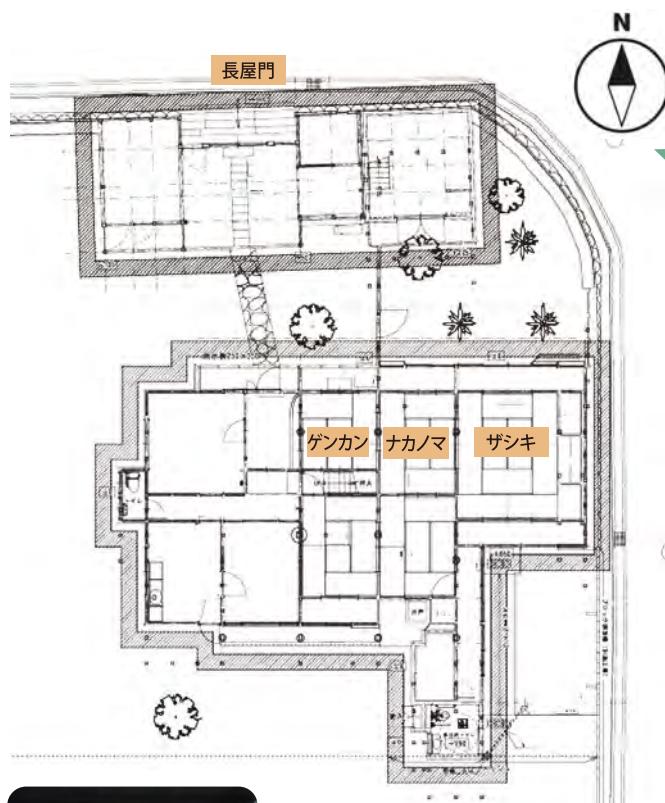
## 奥田家住宅（分家）と 史跡山科本願寺跡公園

連絡先：特定非営利活動法人 古材文化の会  
〒607-8346 京都市山科区西野山階町35  
Tel: 075-632-9646 Fax: 075-632-9592  
e-mail: [bunka@kozai.or.jp](mailto:bunka@kozai.or.jp)



## 奥田家住宅(分家)

奥田家は西野村の山科郷士・庄屋の家柄で、所有する敷地内には山科本願寺の土塁が取り込まれる形で保護されており、山科本願寺跡の継承に深く関わってきたことがわかります。奥田家の分家であるこの屋敷は、大正元年(1912)に建てられたとされ、通路に面して石垣を積み長屋門と土蔵を構え、その奥に主屋が配置されています。



主屋は昭和30年代以降に幾度か改修されていますが、ザシキ、ナカノマ、ゲンカンは往時の姿を留めています。

写真:ゲンカン



## 山科本願寺について

山科本願寺は、文明10年(1478)に本願寺中興の祖である蓮如上人により造営が開始された寺院町です。周囲には防御施設として土塁や堀がめぐらされ、その外側には僧侶や寺に関わる有力者が生活する「内寺内」、その外側には門徒や職人や商人などが生活する「外寺内」と呼ばれる区画が存在していました。

当時は応仁・文明の乱(1467-1477)で京都が荒廃し、戦国の世に移り変わろうとする中で「寺中広大無辺にして、莊嚴さながら仏國のごとし」と公家の日記にも書かれ、その繁栄ぶりがうかがえます。しかし、造営から54年後の天文元年(1532)に細川晴元率いる法華宗徒と近江守護六角氏の連合軍の焼き討ちに遭い、最期を迎えることになりました。

## 史跡山科本願寺跡公園

この場所は御影堂や阿弥陀堂などの主要堂舎がある「御本寺」の一角にあたります。平成22~26年の発掘調査で、建物や柵、井戸、土杭、石組溝や半地下の石風呂、山科本願寺期の整地土、及び整地土以前の堀を確認しました。風呂建物の南側には庭や複数の建物を調査で確認しており、客への饗應施設や宗主一族あるいは側近らの居住空間が広がっていたと考えられます。このほか、「御本寺」の西を巡る土塁の構造や築造年代なども明らかになり、山科本願寺の造営過程を知る上で重要な成果も得られています。



石風呂は土間と風呂建物(覆屋)をもち、近くで井戸と竈が見つかったことから、水と湯を必要とした熱気浴を行う石風呂であると推測できます。



山科本願寺跡を中心に蓮如さん縁の地をめぐる「まちあるき」を不定期に開催しています。お問い合わせは古材文化の会事務局まで。